

ササの視察で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報誌

Take free!

なほ

8
月号

vol. 078

シロ+あつ+の+ク

「西成で働くママたち」



特集：働くことの価値

オマジ世代の
報乱

特集：働くことの価値

オヤジ世代の 報'乱'

はなから

ハローライフへ、よう



司会をつとめる「なび」編集長の佐々木敏明氏は1944年生まれの68歳。市民活動に関わり、高度経済成長をも支えてきたオヤジ世代の一人。対するのは大塚でユニークな働く場を創出している「Homedoor」の川口加奈さん、「スマイルスタイル」の塩山諒さん、「2愛大学」の梅山晃佑さんと、なび制作チームの平川隆啓と太田明日香。オヤジ世代とは大きく違う価値観をもつ彼らの生き方は、果たして「オヤジ世代への報'乱」となるのか？

今回の座談会の会場となった「ハローライフ」は、スマイルスタイルが運営する2013年5月にオープンしたばかりのあたらしい形のハローワーク。1階のカフェでもいたただける、加賀の琥珀ほうじという、献上品として使われたお茶をいただきながら始まった。

司会：佐々木
いわゆるロスジェネなどといわれている私の息子、娘世代については、少し前から関心があった。彼ら世代の著作物や、評論に興味を持ち、そして、なにより私の作業周辺には、日ごろから友人として接するこの世代の協力者が多いことをいまさらにして発見した。彼らと私の「日本の今」を話そうと思った。

塩山諒さん
1984年生まれ、28歳。熱くビジョンを語りながらも、社会に対する冷静な現状分析は忘れないリアリスト。「誰も排除されない、誰もが役割を最大化できる社会」を目指すNPO法人「スマイルスタイル」を2008年に設立。現在は、「ニート」を支援するあたらしい形のハローワーク「ハローライフ」をオープンしたばかり。

川口加奈さん
1991年生まれ、22歳。大きな理想を地道な活動によって叶えようとする、堅実派女子。ホームレス状態を生み出さない日本にするため、NPO法人「Homedoor」を大学在学中の2010年に設立。ホームレスのおっちゃんたちが得意としている自転車修理を生かした、レンタルサイクル事業「HUB（Hub）」やホームレス問題を知らするためのまちあるきイベント「釜Meet」を主催している。

梅山晃佑さん
1981年生まれ、32歳。相談ならまかせとけ、懐の広さでどんなパスも受け止め、丁寧なフォローで返してくれる。大阪地域職業訓練センター「Aワーク創造館」で、就業支援や新規事業立ち上げに関する相談業務を行いながら、自宅を開放して自分の好きなことを教えたり学んだりする「2愛大学」を運営する。

レポーター：太田明日香
1982年生まれ、31歳。学術書から雑誌カタログまでオールジャンルのエルカム！仕事はさっさと仕上げるフリーランス編集者。牧田マオオタ編集室という編集事務所を構える。
連絡先 office@edditola.com
2013年西日本出版社より『福祉施設発！こんなにかわいい福祉本』（中野孝子と共著）を出版。

勤機としての挫折体験

司会：経済成長が優先され、「いい学校」「いい会社」に入りたいことをよしとする僕らオヤジ世代にとっ
ては、落ちこぼれないように勉強することこそが、社会的成功につながるかと信じられていたが、君たちにとっての落ちこぼれ経験を聞かせてほしい。

梅山：僕自身は小学校で不登校になって、その期間は絶望してしま
った。死のうと思っていた時期も
あったのですが、自殺未遂をして
も体が元気だから死ぬなかつた。
死ぬなら生きておこうと思う
うち、サポーターの方やいろんな
人との出会いがあり、外に出てこ
られるようになった。

その時期があつたから強さが得
られたと思つています。人生で底
を経験したから、自分のような存
在を作らないようにしたい。いま
の社会では不慮防者とみられて
も、自分を生かせる環境を作りた
いと、スマスタを立ち上げました。
川口：私はとくに挫折体験はあり
ませんが、(ホームレスの)おっ

ちゃんたちに申し訳ないという
罪の意識があつて、高校から大学
にかけて活動してきたというこ
ろがあります。大阪市内の中学校
に通うときに新今宮を電車で通る
ようになり、周りには釜ヶ崎を避
けて通学している子もいたのです
が、大人たちはそこに何があるか
教えてくれませんでした。

隠されていることで逆に気に
なつて、たまたまチーフシを見て炊
き出しに参加しました。「いいこ
の家」でおにぎりやホームレスに
渡すということをしたときに、神
父さんに「あなたのような孫や娘
の世代からおにぎりをもらおうおじ
さんの気持ちを覚えて渡さなさい
」と言われたことをきっかけに、
ホームレスってどんな人なんだろ
うと思うようになりました。

自分で勉強するうちに、世間で
言われているように、楽だからとい
う理由でホームレスをしているわ
けではないことがわかりました。
それから、全校集会で話したり、
ホームレス問題について知らせる
新聞を作ったりと、どうにかしな

ければという気持ちですつとやっ
てきました。

梅山：僕の周りの同世代を見てい
ると、何か目標ややりたいことを
見つけて動かないといけないとい
うプレッシャーがあるように思い
ます。でも、仕事だけでそれが達
成されるわけではない。仕事と勤
き方、生き方を考えようとしたの
が、「2畳大学」をやるきっかけ
になりました。

僕自身も大学生のときにひきこ
もりの時期があつたんです。その
ときに復活できたのは、自分の周
りのバイト先の人や大学の仲間
友達のおかげですね。

「2畳大学」のいいところは無
理のない範囲で続けられること。
お金など負担をなるべく減らす
方法を考えたときに、家を使うこ
とを思いついた。これで独立した
り、大規模にすることは考えてお
らず、自分の家でやれる範囲のこ
とを長く続けていくことが目的で
すね。

司会：勤機は「挫折体験」という
個人的なものだけど、それが社会

くこともできるけど、信じること
はできない。
もともとNPOを作つてこ
ういう事業をやるとういうより
かは、既成のハローワークは
古がたつたから、今の時代に合わ
せて自分たちでハローワークを
作つたし、川口さんは、新しい
ホームレス支援の形として、今の
「Home door」という形に
なつたんだと思う。

川口：働き方という点で言うと、
この春に卒業してから、初めての
ゼミの飲み会が3日前くらいに
ありました。周りは普通に新卒で
就職して、今の時期は研修が
終わつて本格的に働き始めたとい
う時期なんです。みんなは愚痴が
多くて。そんな話の中で、私はリ
スクはあるかもしれないけれど、
自分が代表としてやっていること
なので、自分のところで愚痴を言
うこともないし、愚痴に思うこと
もないので楽だなあと感じまし
た。

平川：僕は2007年に、梅山
君がスタッフとして関わっていた

的な活動につながっている点は、
君ら世代の特徴かもしれないね。

ここで、僕たちオヤジ世代との
違いを知るための参考として、3
人と同年代の若手評論家、政上チ
キ(81年生まれ)の「僕らはいつま
で「ダメ出し社会」を続けるのか」
と、社会学者である古市憲寿(85
年生まれ)の「絶望の国の幸福な
若者たち」を挙げたい。

2つの本では共通して、これま
では個人が組織に動員されて社会
参加することが求められてきたけ
ど、SNSやインターネットによ
つて簡単に人が集まれるようにな
つてきたということが指摘され
ている。若者たちは一時的な熱狂
やお祭り騒ぎ、自分の居場所を社
会運動に求めているのだという。

3人の活動も、いろんな立場
の「人が集まってくる」という点
では共通していると思う。梅山さ
んは、気軽に地域で参加できるよ
うに連携活動を「こみひろい」と
してイベント化している。川口さ
んは釜ヶ崎で、ホームレスのおっ
ちゃんたちと交流したり炊き出し

からほりまちアートの関わるよう
になつたのをきっかけに、ココ
ルームを紹介してもらつて、大阪
で働くようになった。そこを通じ
て、川口さんや佐々木さんにお
会いして、人の出会う場、集まる
場につながつていった。僕はそう
いった「人が集まる場」をきつか
けに働き始めたので、人が集まる
場がもつ力に興味ある。場の持つ
力は若者の力につながっているの
ではないかと思う。

司会：もしかしたら、3人の活
動は、若者の居場所や社会貢献活
動以上の意味をもっているのかも
しれないね。それは、未来への「希
望」と言い換えてもいいかもしれ
ない。勤機は個人的なものだった
かもしれないけど、3人は、自分
たちの手で未来を切り拓き、少
ずつ社会を変えている。それこそ
が、「未来に希望がない」とぼやく
僕ら世代たちへのささやかな、し
かし、慧美な叛乱となるのかもしれ
ね。オヤジ世代のつまらん
価値を、いっしょにかえよう。

オヤジ世代の叛乱

に参加する「釜 Meet s」を主
催している。梅山さんの「2畳大
学」には、自分たちで学びたい講
座を企画し、運営する若者が集う。
僕ら世代は組合や地域共同体の
力が強かつたけど、3人の世代に
はそれがない。3人の活動はそう
いった場を求める若者たちの拠り
所となつているんやらか？

希望としての社会活動

梅山：内容に関わらず居場所や場
所を求めて来ているということは
あると思う。体験自体を楽しむ人
もいるだろうし、それは一概には
言えない。ただ、僕が感じるのは、
体験やそこで得られる満足感を重
視する人は増えてきているように思う。

梅山：今はマスコミや社会など信
じられないものが多い時代。だが
ら、信じられるものとして体験が
出てくるのかもしれない。「ゴミ拾
いであろうとホームレス支援であ
らうと、今までの規制を打ち破つ
たり乗り越えたりするところ」に
かすかな光が見えるんですよ。か
すかな希望が見えるから参加する

んですよ。選挙には光が見えない
から行かないわけで、今の若者は
これまでさんさん教育や就職で期
待を裏切られ続けていたりして、
信じられなくなつている空気感と
いうのがあると思う。
今の若者を突き動かす何かつて
いうのは、規則規制とか大前提を
打ち破る何かなんですよ。
司会：信じる信じられないという
言葉が新鮮。信じられない世の中
で、若い人たちが自分が本当に生
きてみたい、あるいはもうちょつ
と人間らしい生き方をしたいとい
うときに、ちよつと裏切が見える
ことつていうのが、「ゴミ拾いで
あり、ホームレスの応援作業であ
る」ということなんやね。

梅山：自分がやりたい仕事を求め
ていても、フェイスワーク(食べる
ための仕事)とフェイスワーク(や
りがいを求める仕事)が別れてし
まつていて、フェイスワークでは
希望が見えない。土日や週末にフ
イフワークがあるからこそ、活力
になるといふことがあるんですよ
ね。フェイスワークだけで食べてい



【大田明日香】貴校は中卒の方のお仕事が多いので、今回は同世代やもっと下の世代とお話を
きて新鮮でした。



【高橋祥吾】僕は、いろんなところでお祭りが開
かれていて、その地域によって違いがあつて楽し
いです。だんじり囃子を聞くと、胸躍ります！
3歳の息子も大鼓の音が大好きです！



【平川隆博】寝あつてここ数年、西成や空襲の地
域にひょいっと足をだして調査やお手伝いをし
ています。何よりの楽しみは地元の方たちとの交
会！



【田岡秀明】カブトムシ取りで穴場を見つけたが、
梅山にはたくさんスズメバチ。刺された時の激
痛が記憶から蘇る。「今日はこれぐらいにしと
いた。」とそそくさ退避・・・

サウスオブミナミ

vol.05



家にサンドイッチされたお地蔵さん
路地にぽつんとお地蔵さん
広々敷地のお地蔵さん
家に埋め込みお地蔵さん
小屋の中のお地蔵さん

個性的なお地蔵さんの特徴をピックアップ!
※お地蔵さんにはそれぞれお名前があります。今回は正式なお名前ではなく、特徴を表現してみました。

「お地蔵さんに会いたい」

サウスオブミナミには無数のお地蔵さんがひっそりと佇んでいます。今回はそんななかから西成区山王を中心に15の地蔵尊を紹介します。その姿はどれも個性的。名前のあるものないもの、路地のなかや家のくぼみや通り沿いなどで、いろんな場所でいろんなカタチの祠に入ったお地蔵さんに会うことができます。

年に一度、8月23日、24日の地蔵盆にはお菓子を手にした子どもたちで一気になごわいます。



家から飛び出しお地蔵さん
タイル土台のお地蔵さん
ハルカス対決? お地蔵さん



どこかへお出かけお地蔵さん
仲間がいっぱいお地蔵さん
ペットボトルの提灯お地蔵さん



番外編



黒龍大神
まちを見守る大神さま。近くには天龍大神、白龍大神もあります



お供えにぎやかお地蔵さん
台形土台のお地蔵さん
真四角土台のお地蔵さん
雨よけ? 袖付お地蔵さん

[西成区地蔵盆研究会] 西成区のお地蔵さんについての情報が集まっています!
<https://www.facebook.com/nisinarijizoubon>



リハポトフ

No.05

「西成ではたらくママたち」

プロフィール
菅野子
思春期真っ只中の息子と向き合い、奮闘しながら今は再婚という広縁。息からはお母で、日々子ども達のことを考えるママです。

編集金子
母の心と人の心をつなぐ。夢や希望を叶え、社会での活躍が出来るママをサポート。笑顔の子育てママに寄り添う編集者の心を伝えます。

お湯がげん

市民交流センターを「互助の施設」に再生する

元々の法制度上の呼称は「確保館」で、同対法時代の近畿地方では解放会館と呼ばれ、後に人権文化センターとなり、現在に至った市民交流センターが、いま存亡の危機にある。都府府放同盟大阪府連の北口末広委員長が言い続けてきた「ピンチをチャンスに」の発想で、交流センターを「互助の施設」に再生できないかを問うのが、今回の「いい湯加減」だ。

元々の目的であった被差別部落の生活環境改善は大きく前進したが、高齢化、流動化、貧困化、同和対策の成果の空洞化が進行し、再ブライト化（荒廃）が懸念されている。この状況は、かつての工場地帯とか密集市街地などにも共通するもので、コミュニ

今回はホストの菅さんと、天神ノ森にあるママの憩いの場、あおぞらアトリエへ。ゲストは、アトリエの店主・篠森さん。カフェ、ワークショップ、アトリエと、人が集まる場所を提供されています。お伺いした時間にも、子育て中のママや近所のおばあさんなど篠森さんに会いに来る人でいっぱいでした。

菅：うちは、初めは雑貨のお店だけだったけど、知らず知らずのうちに地域に目が向くようになって。何の縁かわからへんけど、遅くとも、そのままの流れで終わるがまま。

篠森：うちは、菅さんのところからいろんな人が来はるしね。

菅：お互いねー（笑）

篠森：そんなご縁があって、地域のことに参加していくきっかけになってるんよね。最近私どうなっていくんやろうって思うねんけど、まあ優しい方向へ行ってるし、いいかなって。

菅：「自分が嫌じゃなかったら間違ってる」くらいの気持ちでね。自然と気持ちがいい方へ向かってるんちゃうかな。

篠森：店をしないとかからへんかったこと、いっぱいあるなって思うわ。今こは、歴にママたちが子どもを連れて遊びに来てくれる場所になってる。自分も子育て中で、同じママたちといっぱいおしゃべりしてるんよね。たとえば、赤ちゃん産みたてで、社宅に入ってるママとかすごい孤立してはるんよ。知らない場所に住んで、赤ちゃん産んで育ててっていうので、話せる相手がなかなかない。

菅：してるよね。見えない部分やから。そういうところからボツンって来てくれればったりする。雑貨やカフェもそうやけど、行政の施設より行きやすかったりするんよね。

篠森：施設自体に行きにくい人も確において、場所があるんやけど行けない。けど、頑張って子どものために行ってる。だからこそ、ママの時間は絶対いるよね。

次回はホストを篠森さんへバトンタッチ！

ニティの再生（ソーシャル・インクルージョン）という大阪市の新しい、進行形の都市課題でもあり、交流センターの役割は終わっていない。しかし、交流センター存続には、①大阪市コミュニティ振興施設条例では施設の位置付けが弱々しく、②人件費が高く、大型施設のための維持費が嵩み過ぎ、③耐震工事を必要とする施設ではコストが膨らむというハードルがある。

そこで、施設の位置付けだが、全国で自然発生的に創発されてきた「コミュニティ・カフェ」を進取できないか。コミュニティの喫煙のテーマである「居場所」を、カフェというが如く無料ではなく、有料・会費制で運営し、公共等が未利用施設等を無償・低額貸与で支援するというものだ。部落解放運動が持つ互助機能と、地域の福祉・医療法人或いはNPO等の互助支援機能を重ねて、公的責任に代わる市民協働の理念で、確保館（その昔のセトルメント）を現代に再生するということだ。そして、施設の運営だが、住民から利用料金を徴収し、運動団体や社会団体等からポワンティア、プロボノ（無料又は低額で派遣される専門家の協力を得て、管理費+事業費+人件費をほぼ自己調達することはできないか。実際には、高齢者等は居場所確保に既に少なからぬ支出をしている。また、社会的団体等からすると、高齢者だけでなく困難を抱えた地域住民のプラットフォームを創るという「自主事業」は生活支援戦略でも提唱されている。かつての配食サービスを想定したような「居場所の市場化」構想だ。

平松前大阪市長が提唱した市民協働を橋下市長が踏襲したの



編集代表取締役 高田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

は賢明だった。橋下市長が「交流センターが雇用対策なら廃止する」と断言したことにも理があった。平松さんも橋下さんも、部落問題は市民協働の重要なテーマだと繰り返されてきた。厚生労働省も、何でも法制度（公費助成）で社会福祉をやる時代ではなしと生活支援戦略を打ち出した。大阪の部落解放運動も、公助だけでなく共助も組み合わせて「新しいセーフティネット」を創ると、「新たな部落解放運動への挑戦」（前々号のこの欄で紹介した）に記した。いま、交流センターを互助の施設に再生する試みは、時機を得ていると思っただが、如何だろうか。



【編集後記】なびがリニューアルしてから4ヶ月目の今月号。早いもので、もう夏です☆夏祭り楽しみますね！



【西井孝介】暑いですが、大阪の夏は「ただの夏」なのに、ちょっと地方にくると「夏休みっぽい夏」になる不思議。



【みかんちゃん】写真甲子園本戦まで1週間を切りました！早く北海道に行きたいです！でも、緊張と楽しみが入り交じっています（笑）いっぱい帰って、いっぱい食べるぞー!!!



【いっぺーくん】子どもにも安らぐ場所が必要ですが、お母さんにもホッと一息いれる場所は必要。その悩みを解消し、本当にママさん達にとっては大切な場所になっているんだなと思いました。



川広製資料調査とされた。その序文に私は、本書制作の目的となる視点を書いた。第2の視点は「水と人とくらしに設定し、人が川や水及び自然環境・地理的条件の中で

この調査の根っこに、私は大滝ダムを抱える上流の村と下流域の白泊村が、川を核にして、相互に情報交換が出来る「川の会議」のような交換場をイメージしていた。私が取材で歩いたのは古野川・紀ノ川の河川流域にある川上村、古野町、大淀町、下市町、五條市、橋本市、九度山町、高野町、かつらぎ町、那賀町、松岡町、打田町、岩出町、橋山町、貴志町、和歌山市（白泊村名は全て2000年当時）の3市12町1村である。

枝葉末節

才藏さん その2



hidarimaki こと佐々木です。才藏さんの仕事は今も新しい。何百年の時を越えて、いまだ人々の暮らしを守り、人々を共感させる。静かのために生きる才藏さん。かっこよさ。

最終的にタイトルは「天満ダム河川広製資料調査」となった。その序文に私は、本書制作の目的となる視点を書いた。第2の視点は「水と人とくらしに設定し、人が川や水及び自然環境・地理的条件の中で

どのようにならうか、生涯自立してきたか。それらの生活が現在に於ける過程を探ってみた。そして「近隣の関係、上下流域の交換がますます重要な今、人間同士のコミュニケーションのあり方を第二の視点としていた。また「人間の自立と夢が将来を開く原動力である」と想定し、文化の創造を第三の視点とし、本調査における各テーマ、各項目を先案する目安にしている」と書いている。

本編は第一章上流編と第二章下流編に分かれ、第三章の資料編を含めて全520ページの調査書となった。平成11年3月、ファイル化した建設省近畿地域に納入された。私のデータはパソコンで纏じられることとなくコピーで、今もパラパラで私のもとに残る。空々真。

紀ノ川、古野川流域調査の当初は何処に行き、誰に会い、対象者によって何を聞くのからかじめスケジュールを立て、必要に応じて予約もしながら行動を開始したが、そんな方法がそれほど重要ではなくなる。聞き取りをした人から、調査にふさわしい人をリレー式で紹介してくれ、現地を歩くことで人に出会い、その地域独自の場所や重要な資源、風景が見え隠れもできた。才藏さん

のこともそうだった。いくつかのエリアを分けて紹介する。那賀町（現在の川市の紀の川支流となる名手川の増設や、環境美化を目的の市民団体があり、取材を申しられると、ちよっと保守愛国ムードを漂わせた3人のおじさんたちが、わざわざ私を車で迎え、自分たちの活動の失敗や成功を話さず、「川の美化だけではなく、川を中心に人間のコミュニケーションや街づくりを計画していきたい」と話した。名手川を案内し、水門から名手川に水が流れるのを見ていた私に、「あれは高野口から流れてくる大型才藏の小田井です。この堰は岩出まで流れています」と説明し、堰には車で送ってくれた。名手川上に堰のぼりを流し町のみんなに喜ばれているようだった。

聞き取りの希望を伝えると、電話に出た責任者は快く応じてくれた。しかし約束の時刻には無理となり代理人が来たのだが、この人は公立高の教師と名乗り、私の聞き取りには一切応じなかった。「建設省の同じ者に話すことはない」だの「国家権力の大きさの一点張りを取りつく島がない」「ダムがなぜ必要かを伝えることもこの調査書の役割だから」と言っても長話聞かなくて嫌方樹の烙印をおされ続け、成果もあげられなかった。公立高の先生は公務員で私は無職だ。体制側から国家権力と言われたのはこれが初めてだった。そんな差別的性すらも自己批判できない馬鹿な左翼に唖然とした。

岩出町（現岩出市）の中島地区には新田集落が残っている。この地域は、紀ノ川から分岐した「中乃井」と「六ヶ井」の堰によって、田畑の灌漑が行われている。これらはどちらも才藏さんが普請したものだ。この辺の集落は紀ノ川の氾濫地帯でコンクリートや石で築き上げられた住宅や蔵が多く、独特の風景をかもし出している。この集落風景も才藏さんの導きで発見できた例である。資料も引続き、河川の流域で得た枝葉末節を語りたい。hidarimaki

赤ちゃん歩きはよちよち歩き。転びそうで転ばない。おぼつかない足取りで、一歩一歩前に進む。子ども歩きは冒険歩き。あっち行ったりこっち行ったり、楽しそうな足取りで、元気に前に進む。大人歩きは経路歩き。笑ったり怒ったり、喜怒哀楽な足取りで自信を持って前に進む。老人歩きはゆっくり歩き。慌てず急がずのんびりとした足取りで、一日一日大事に進む。

聞き取りの希望を伝えると、電話に出た責任者は快く応じてくれた。しかし約束の時刻には無理となり代理人が来たのだが、この人は公立高の教師と名乗り、私の聞き取りには一切応じなかった。「建設省の同じ者に話すことはない」だの「国家権力の大きさの一点張りを取りつく島がない」「ダムがなぜ必要かを伝えることもこの調査書の役割だから」と言っても長話聞かなくて嫌方樹の烙印をおされ続け、成果もあげられなかった。公立高の先生は公務員で私は無職だ。体制側から国家権力と言われたのはこれが初めてだった。そんな差別的性すらも自己批判できない馬鹿な左翼に唖然とした。



西成活動記

第五回「廣田神社の山車巡行」



うーちまじまじ！
夏に入りお祭りが近づく
と、どこからか太鼓を練習する音が聞こえてきます。
今日はお祭り本番。山車を引きながら練り歩き、自慢の太鼓や鮮やかなハッピ姿でまちはにわかに活気づきます。
一軒一軒「打ーちまひよーもひとつせ 祝うて三度」と手打ちを鳴り響かせ、みんなが一体となりながら山車は進んでいきます。子どもも大人も一緒にあって夏を彩るお祭り。これからも未水く続きますように！
文：平川隆男／写真：高橋啓吾

ピースのつばやま

ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。

「ゆっくり歩き」
赤ちゃん歩きはよちよち歩き。転びそうで転ばない。おぼつかない足取りで、一歩一歩前に進む。
子ども歩きは冒険歩き。あっち行ったりこっち行ったり、楽しそうな足取りで、元気に前に進む。
大人歩きは経路歩き。笑ったり怒ったり、喜怒哀楽な足取りで自信を持って前に進む。
老人歩きはゆっくり歩き。慌てず急がずのんびりとした足取りで、一日一日大事に進む。
一日一日大事に進むワンワン!!
赤井まゆみ

思ったら！ にしなりカレンダー

地域で

お地蔵さんを探してみよう！

あなたの町の地蔵盆

日程：8月23日、24日ごろ
(※地域によって違います)

場所：お地蔵さんのあるところ
(※地蔵盆の置かれる場所もあります)

子どもも！大人も？いっしょに楽しい小さなお祭り
身近なところにあるかもしれません！
ぜひ参加してみよう！

公園で

夏だ！水遊びだ！
おもいっきり元気に遊ぼう！

みずあそびまつり in 西成公園

日時：8月31日（土）
13:00-15:00頃（雨天中止）
場所：西成公園（津守1丁目）

一緒にやっちゃろかい！いっちゃろかい！
あそび大好きな人、大募集～！
◆ドロあそび◆かいかぞくプール◆
ブルーシートすべり◆水でっぼう合戦
問合せ：「あそびパーク★プロジェクト」
事務局：今池こどもの家
TEL：06-6632-7020

商店街で

この商店街この町にできることを
一緒に考えよう！

第8回動物園前サイエンスカフェ

日時：9月1日（日）16:00-18:00
「地域の医療をどうするか」
他人事ではない医療の問題。一人ひとりできることは何か？身近な商店街から考えてみませんか。
話題提供：高島毛敏雄さん（関西大学・NPO法人ヘルスサポートおおさか）

場所：動物園前1番街
<http://enmae12science.blog.fc2.com/>

鶴見橋商店街にぎわいプロジェクト公開講座

サバイバルカフェ 一咖啡を片手に語り合おう

8月10日（土）[1部] 10:00～ [2部] 15:00～
「今の時代だからこる業という選択をする意味」
話題提供：永宮裕一さん（藝田 Lover's）
場所：鶴見橋商店街7番街 かざみどり
問合せ：鶴見橋商店街にぎわいプロジェクト生涯学習講座スペースかざみどり
TEL：06-6561-6384
参加費：800円（咖啡またはお茶を1杯サービス）
新鮮野菜も産地直送販売！

あとがき

暑中お見舞い申し上げます。

日射病が熱中症という名に変わって久しいです。熱中症というから、仕事やらスポーツやらで熱中しすぎて倒れるものだと思っていました。横断していても、遊びほうけていても、家の内外関係なく、誰でも彼でも熱中症にはかかれるのだ。ところで8月号は、オヤジと息子、娘世代のミーティングに熱中してしまいました。

（佐々木）

なび8月号 (vol.76)
発行日：2013年8月10日（創刊日：2007年1月1日）
発行：株式会社ナイス
発行人：代表取締役 菅田一幸
印刷：有限会社眉山堂
住所：大阪市西成区長瀬3-6-33 電話：06-6563-1156
E-mail: info@nice.ne.jp url: <http://www.nice.ne.jp/>

編集長：佐々木敏明
編集：田岡勇樹、平川雄啓、西井晃介、飯田沙保里
イラスト：hidarimaki デザイン：高橋静香
表紙写真撮影：大阪市立工芸高等学校 撮影研究部
三上真奈美（みかんちゃん）、一ノ瀬武留（いっぺーくん）
（表紙の写真は「あおぞらアトリエ」で撮影しました。）